

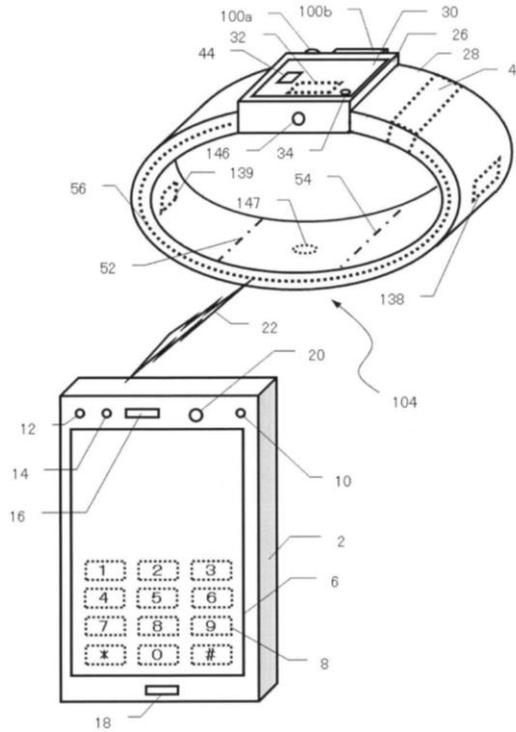
電気機械

軟骨伝導による受話機能をもつ腕時計

発明の名称	受話機能を有する腕時計		
出願人/権利人	株式会社ファインウェル	発明者	細井 裕司、細井 陽司、田中 雅英
出願日	平成27年9月16日	出願番号	2015-182592
公開番号	2017-58228	特許番号	6551929
法的状態	登録中		

代表図

- 2 携帯電話
- 6 表示部
- 8 操作部
- 10 赤外光発光部
- 12 赤外光発光部
- 14 赤外受光部
- 16 イヤホン
- 18 マイク
- 20 テレビ電話用内側カメラ
- 22 電波
- 26 腕時計本体
- 28 ベルト部
- 30 腕時計表示部
- 32 送受話装置用スピーカ
- 34 カメラ部
- 42 締付け機構
- 44 スイッチ部
- 52 振動隔離帯
- 54 振動隔離帯
- 56 アンテナ
- 100a オンオフスイッチ
- 100b 発呼着信応答ボタン
- 104 腕時計型送受話装置
- 138 第1軟骨伝導振動源
- 139 第2軟骨伝導振動源
- 146 表側マイク
- 147 裏側マイク



発明の概要

手の振動を介して軟骨伝導を生じさせることで効果的な受話機能を有する腕時計

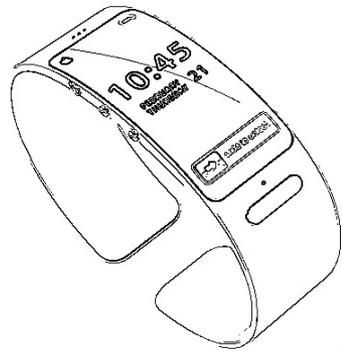
特徴

観察時に天地を反転できる表示部と、装着時に橈骨の遠位端近傍・尺骨の遠位端に接する部分にそれぞれ設けられた軟骨伝導用の振動伝達部とを設けた腕時計である。装着時に手の甲側に来る位置に操作部を設ける。加速度検知部が検知する加速度に基づき表示部の天地が正立状態となる向きを判断し、重力加速度の平均値に基づき操作部が上下いずれを向いて装着されているかを判断する。表示部の天地反転に連動して、軟骨伝導用の振動伝達部のうち橈骨の遠位端近傍に来る方を選択的に振動させる。

受話機能を有する腕時計に適用できる。

関連分野

放送・通信、マルチメディア機器、医療・保健衛生



腕時計型ウェアラブル端末



骨伝動腕時計

など

応用の可能性

- ・腕時計型ウェアラブル端末
- ・骨伝動腕時計
- など

本技術の活用が見込める企業の一例

- ・ソニー株式会社
- ・シャープ株式会社
- ・カシオ計算機株式会社
- ・オムロン株式会社
- ・セイコーホールディングス株式会社
- ・セイコーエプソン株式会社
- ・シチズン時計株式会社
- ・株式会社アイ・オー・データ機器
- ・オリエン特時計株式会社
- ・株式会社バッファロー
- など

株式会社ファインウェルの本発明に関する最新動向

- ・株式会社ファインウェルのホームページは見受けられない。本件特許に関連する動向情報は見受けられない。